

中山間地域元気創出若者活動支援事業に係る活動状況報告

活動状況報告

(グループ名：山口県立大学企画デザイン室)

活動年月日 (活動場所)	活動状況 (参加者数)
<p>平成23年 6月1日～8月27日</p> <p>(徳地堀1659) アウリンコ・徳地・タロ</p>	<p>徳地和紙イルミネーションの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「とくぢ夏祭り(8/27)」において、堀商店街にある200メートルの道を「徳地和紙イルミネーション」という照明により空間デザインをした。 ・「徳地和紙イルミネーション」とは、徳地和紙のコサージュや徳地和紙の原料となるミツマタの木、LED(発光ダイオード)などによって作られるもので、徳地和紙のコサージュにはLEDの芯があり、和紙の花から柔らかい光が透過し、数十種の徳地和紙が使われている。 ・通りに配置された52基の照明には、1個のコサージュと3端子のLED、一本のミツマタの木を使用。入口に配置されたシンボリックな巨大な4基の照明には、各20個のコサージュと各60端子のLED、10本のミツマタの木が使用。 ・通りにはミツマタの木だけのもの10本と、原料として皮のはがされていないミツマタの木が1つ設置された。計132個のコサージュと396端子のLED、100本のミツマタの木、皮のはがされていない生のミツマタの木1本が置かれた。 ・コサージュ作りは、徳地住民も含めたボランティアが参加。LED作りには、徳山高等専門学校教授伊藤尚先生の指導を受けてボランティアと共に一からつくられた。さらに、徳地の古い着物で照明を飾る古布のしおりもつくられ、この古布はプロジェクト参加者全体に配られた。 ・設置、片づけは、地区内・地区外のボランティアの方々と県立大学が一丸となって実施した。 <p style="text-align: center;">活動経費は、山口市の助成金を活用。</p> <p>(参加者：学生8名、教員 - 名、地元住民等35名)</p>
<p>8月8日～8月31日</p> <p>(徳地堀旧商店街通)</p>	<p>夏祭り展示の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳地和紙イルミネーションの展示と合わせ、徳地地域で受け継がれてきた古い着物の価値を地域内および外部の方々へ訴えるため、展示を行った。 ・この展示は、別に実施しているプロジェクトである「袴プロジェクト」で制作するパンツと同じ着物の生地を使うことで、袴パンツの周知を図る取組でもあった。 ・昔ながらの生活が現代まで受け継がれてきているということを表現するため、現時点を示す象徴として菜を制作した。また、パネルも一緒に展示し、徳地地域に眠る着物の存在、その生地が持つ歴史の深み、価値に重点を置き紹介した。各イルミネーションに展示した菜は、イルミネーションの制作者を見分ける印としても使うことで、徳地和紙と地域の着物地に対する住民の周知を高め、愛着を育てることに努めた。 ・山口県立大学企画デザイン研究室と堀4区の地域住民と一緒に町おこしをして行くのだという意識を高める展示となった。 <p>(参加者：学生 名、教員 名、地元住民等43名)</p>

<p>8月27日～9月12日</p> <p>(徳地堀1659)</p> <p>アウリンコ・徳地・タロ</p>	<p>コンパネアート展(展示期間 8月27日～9月15日)</p> <p>徳地の商店街にあるヤマダ電機の空き倉庫で、各参加者(徳地地区小中学生 20名、地元住民等 56名)が思い思いの絵をコンパネに描き、「アウリンコ・徳地・タロ」にて展示を行なった。</p> <p>助成金で活動を実施したものではなく、展示場所を提供したもの。</p>
<p>9月12日</p> <p>(徳地堀1659)</p> <p>アウリンコ・徳地・タロ</p>	<p>コスモス絵画展(展示期間 9月16日～9月15日)</p> <p>山口市中央小学校1年生から5年生の約80人が徳地堀のコスモス畑で写生をした絵画80点余りを「アウリンコ・徳地・タロ」にて展示を行なった。</p> <p>助成金で活動を実施したものではなく、展示場所を提供したもの。</p>
<p>8月28日～11月6日</p> <p>(徳地堀1659)</p> <p>アウリンコ・徳地・タロ</p>	<p>アウリンコ空間デザインの実施</p> <p>これまで使われていなかった空き店舗を改装し、地域住民等、誰もが気軽に入れるサロンのような場所と、作品の展示会を行える場所といった2つの利用ができる拠点としてオープンすることを目指している。</p> <p>特に、高齢者が多い徳地地域において、ひきこもるだけでなく外にでて集える場所をつくる必要がある。また、展示会をしたい地域住民等の要望を叶え、従来とは異なる徳地の地域づくりに貢献する。</p> <p>この二つを目的に、今後、三年計画で取り組むこととし、一年目の今年は、ゼロ予算、徳地夏祭りの余り物、譲っていただいたものという条件のもとで改装した。主な活動は、三年後を見据えた店舗のコンセプトや用途、空間デザインの平面図の作成である。</p> <p>(参加者：学生1名、教員1名、地元住民等5名)</p>
<p>9月8日～10月22日</p> <p>(徳地「重源の郷」)</p>	<p>「重源の郷 秋の1日ワークショップ」の開催(開催日10月22日)</p> <p>徳地地域の文化創造・伝承・発信を目的としたスペース「アウリンコ・徳地・タロ」のオープンを12月4日に控え、そのイベントとして、重源の郷において「徳地手漉き和紙で豊かに生活を飾ろう」をテーマに、秋の1日ワークショップを行った。</p> <p>徳地のミツマタから漉かれた徳地和紙を用いて、エコバッグと和紙花、パッチワーク、ニット、手漉き和紙のマーブル染めによる生活小物を提案し、参加者と共に作成。モノづくりを通して多面的に徳地和紙の魅力をアピールし、手漉きの伝統技術保存の重要性を訴えた。作品をアウリンコのプレ・オープニングで展示する旨を参加者に伝え、県立大学がプロデュースするアウリンコプロジェクトを紹介した。</p> <p>「エコバッグと和紙花」の製作</p> <p>徳地和紙の強度と質感を活かした和紙の花と、一枚の布で作るエコバッグを紹介した。和紙の花びらは、「折る 縫う 絞る」の工程を示し、後は参加者の感性に合わせて制作していく方法で進めていった。</p> <p>和紙は、時間の関係で、予め適当な大きさに切りそろえた「ぼかし染め」を準備。制作時に出た紙くずは、参加者でもある幼稚園教諭の提案で、園児達の切り紙遊びの材料として持ち帰って頂いた。</p> <p>花芯の部分は、各自のオリジナリティーをフルに発揮できるよう、材料を十分に準備した。カラフルな糸玉や様々な種類のビーズやウッドビーズ、参加者自らが持参したボタン等を、自由にトッピングし、ボンドで接着し形成していった。</p>

希望者には、糸で編む糸玉の作り方の説明を行った。7～8名の参加者があり、予想していたよりも各々が積極的にアイデアを出し合い、実にバラエティー溢れる和紙花作品の数々が仕上がった。エコバッグは「畳む 結ぶ」の工程で仕上げた。後日、糸玉の講習や追加制作の依頼を受けた。

「パッチワーク」作品の制作

徳地手漉き和紙と和布の古布をジョイントさせ、「杣里の四季」(秋)をコンセプトに小さなタペストリーを制作する初めての試みでした。参加者に自由な選択とデザインのワクワク感を味わっていただくと考え、三つのコース インディアン・ハッシュのパターン、柿の葉・バージョン、プラタナス・バージョン～を提案した。色合いや布選びはもちろん、デザインや配列など独自の個性が発揮されて、一人ひとりの工夫がみられた。

「ニット・コースター」作品の制作

染和紙の色の柔らかさを活かしたコースターを二枚制作した。用意した方眼編みの本体(13cm×13cm)に、色遊びを楽しみながら、和紙を「畳む 挟み込む」の工程で仕上げた。(染和紙 短冊状のもの11種類を準備) それに加えて、2種類の鎖編みの紐を織り込む方法「編む 刺す」を示し、編みの技法も取り入れ、かぎ針にも親しんで頂いた。染め和紙や鎖編みの、色の組み合わせ、挟む位置や方法などで、各々のオリジナリティーを発揮。時間内に仕上がり、完成の喜びを皆で味わうことができた。

「共同制作作品」(ニットコース)の製作

徳地の冬をイメージした共同作品であり、アウリンコのプレ・オープニングで展示する旨を伝え、参加者にパーツ制作の協力を依頼した。出来上がりの構想等を説明した。コースターの制作過程と同じく、予め用意してきた編地に、今度は白のバリエーションで、自由に和紙を挟み込み、作品の一部をそれぞれに担当して頂いた。おひとり1枚を予定していたが、何枚も仕上げてくださる方もおられ、予想以上に積極的に参加して頂いた。端の始末を切りっぱなしにするなど、参加者からの面白い提案があり、それを取り入れることにした。「出来上がりが楽しみ」という声が多かった。

「手漉き和紙のマーブル染め」の製作

参加者は紙漉き体験をし、その後自分が作った和紙のはがきでマーブル染め体験をした。完成したマーブル染めの手漉き和紙はがきは参加者の同意を得て、徳地地域の活動拠点となる「アウリンコ・徳地・タロ」オープン時に展示した。

(参加者：学生 5名、教員 - 名、地元住民等 29名)

<p>8月20日～10月23日 (徳地堀1659) アウリンコ・徳地・タロ</p>	<p>「袴パンツプロジェクト 袴ワークショップ」の開催(開催日10月23日) 徳地地域に新しい経済活動の場を作る試みの1つとして袴ワークショップを行った。</p> <p>このワークショップは徳地の日常の中にとけ込んだモンベスタイルを提案するもので、そのルーツとなる袴をベースとしたパンツ製作する袴プロジェクトの一環として行った。</p> <p>参加者5名のうち、4名は徳地地域の出身者である。制作した袴パンツは、徳地の魅力である受け継がれてきた昔ながらの生活の価値を再認識してもらうためのツールとして商品化を予定している。住民の技術と徳地の地域資源を経済活動の場に絡めていく一つのモデルを指導することで、住民のもの作りに対する意識や意欲をはぐくむ試みである。</p> <p>参加者から「ものづくりに対する意識が高まった。新しい創作意欲が生まれた。」などの声上がり、活動目的を満たすことができたのではないかと感じた。また、普段ばらばらに活動している住民たちが会おう場ともなり、製作者同士の新しいネットワークを広げるきっかけともなった。</p> <p>地域のコミュニティーを広げる活動の場として、制作中のスペースであるアウリンコ・徳地・タロの必要性を再確認できる機会ともなった。 (参加者：学生2名、教員1名、地元住民等4名)</p>
<p>11月27日 (徳地「重源の郷」)</p>	<p>「袴パンツプロジェクト 着物フェスティバル」の開催 袴ワークショップで制作した袴パンツをモデルに着用してもらい、小さなファッションショーを行った。着物フェスティバルは「着物姿の女性を撮る会」として、朝日新聞の全日本写真連盟がコンテスト形式で行っているもので、その中で地域に密着した新しい着物の形として袴パンツの発表をした。約100名のカメラマンが集まり、袴パンツ及び、徳地での活動の周知の場ともなった。 (参加者：学生モデル3名、教員1名、カメラマン等約100名)</p>
<p>11月12日～11月27日 (徳地堀1659) アウリンコ・徳地・タロ</p>	<p>「フィンランドのクリスマス飾り制作ワークショップ」の開催 (開催日11月27日) 山口県立大学で学ぶフィンランド留学生の指導のもと、徳地で栽培された麦わらを材料にした、フィンランドの伝統的なクリスマス飾り「ヒンメリ」を地域住民が共同制作した。</p> <p>作品は12月4日の「アウリンコ・徳地・タロ」のプレ・オープニングで他の作品と共に展示。徳山工業高等専門学校 機械電気工学科の技術支援のもと、LEDや電池を使用した。将来的には、ゆっくりと回転しながら、発光する幾何学的なオーナメントの商品開発の量産を目指す。 (参加者：留学生を含む学生3名、教員1名、地域住民等6名)</p>

<p>11月29日 (徳地「重源の郷」)</p>	<p>「徳地の地域伝統産業の理解、及び、徳地和紙の手漉き体験」の実施 (アウリンコの理解と重源の郷での紙漉きワークショップ) 山口県立大学国際文化学部文化創造学科企画プロデュース系の学生と教員がアウリンコや、重源の郷にて徳地の伝統文化や自然を学ぶワークショップを開催した。 また、手漉き和紙の実習を通じて、徳地の伝統工芸を体験的に学習した。 この流れを発展させてアウリンコにて作品展示を行った。 (参加者：学生32名、教員 4名、地域住民等 - 名)</p>
<p>6月4日～3月2日 (徳地堀1659) アウリンコ・徳地・タロ</p>	<p>「徳地の若手・手工芸作家展と徳地和紙や古布によるワークショップ作品展」の開催(展示期間12月 4日～12月11日) 徳地の堀 4区との共同事業を通じて、徳地地域の文化創造・伝承・発信を目的としたスペース「アウリンコ・徳地・タロ」を12月4日(日)にプレ・オープンし、記念イベントとしてテープカットの式典を行った。 作品展には、地元の若手作家の作品、今年当研究室が開催した地域住民参加型のワークショップにおいて作られた作品、地域の方々が作成したフィンランドのクリスマス飾りのヒンメリ等を展示した。 作品展運営スタッフ：徳地堀地区住民10名 (参加者：学生 7名、地域住民等 10名、徳地在住作家 4名)</p>
<p>平成24年 1月12日～1月24日 (徳地堀1659) アウリンコ・徳地・タロ</p>	<p>作品展「県大生×和紙+ヒンメリ」(展示期間 1月25日～1月30日) 12月4日にプレ・オープンした「アウリンコ・徳地・タロ」において、山口県立大学国際文化学部文化創造学科の作品展を行った。 2年生の学生32名が受講している「基礎演習」の授業は4人の教員の指導のもと、企画プロデュースに必要な感性とスキルを身につけることを目的としている。 学生が提案する徳地和紙を使用した生活小物や、フィンランドの伝統装飾であるヒンメリから着想を得たオーナメント等を展示した。 (参加者：学生32名、地域住民等 6名)</p>
<p>12月24日～2月29日 (徳地堀1659) アウリンコ・徳地・タロ</p>	<p>「袴ワークショップ」の開催(開催日 2月22日、27日、29日) 袴パンツ製作技術の向上のため、再度、ワークショップをしたいという住民の声に答え、1回目の袴ワークショップに参加したメンバー(1名を除く)4名に集ってもらい作業中に自身の着るユニフォームとして袴パンツを1人1着製作した。 事前に各自の思い入れのある着物地を預かり、その生地を表地として使用した。裏地には用意したニット地を使った。裾を自分の丈に合わせてカットし、今回は省略した芯付けも各自が行った。前回のワークショップよりも、自力で製作するという印象の強いワークショップとなった。また、股上が股下など、言葉の使い方による混乱が前回あったという意見から、こういった言葉が分かりやすいのかを話し合った。知るしつけや手順なども参加者がより作業しやすい方法をコミュニケーションしながら探して行く事ができた。前回間違えた点、上手く出来なかった点など参加者それぞれに反省点があった。その点を改善できるように務めた。</p>

また、普段1人で作業する事の多いため、皆で集まって作業する事でいきいきと縫製作業をしている姿が見られた。途中、話はこの辺にして作業に集中しましょうという声も上がり、質の高い縫製を目指す、意欲的な姿勢が印象的であった。

今回は目の前の作業に集中するのがやっとで完成の全体像が見えていなかったが、再度ワークショップをする事で、構造や縫製の意図を理解することが出来たと製作後、参加者が感想を述べていた。袴パンツの作り手としての意識が高まりや縫製作業を通した住民の活性化が感じ取れるワークショップとなった。

(参加者：学生 1名、地域住民 4名)